



地震にそなえよう

高石市立清高小学校

教科	社会	単元名	自然災害から命とくらしを守る
----	----	-----	----------------

本時のねらい

社会科における「自然災害から命とくらしを守る」の単元から、大規模地震の発生時の被害の大きさや、その時の人々の避難先等での生活を学び、キャンディーチャートやステップチャートを使い、自分の考えをまとめることで、児童の防災意識を高める。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・Inter CLASS Cloud の意見の共有機能を使い、自分と同じ考えや違う考えを容易に比較し、検討することができるので、自分の考えをより深めることができ、また、自分とは違う考えを知り、命を守るという視点から考えることで、自分が何をすべきか考えることができる。
- ・キャンディーチャートやステップチャートをジャムボードで使うことで、一人ひとりが自分の考えを整理しながらより具体的に書き込むことができ、根拠を明確にしながらか自分の防災に対する考えを伝えることができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・電子黒板
- ・ジャムボード
- ・ミライシード
- ・Inter CLASS Cloud

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模地震が起こった時にできることや、日常から災害に備えて準備しておくべきことを考える。 ○キャンディーチャートを使い、根拠を明確にしながらか考える。 <p>【写真 1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンディーチャートを使うことで、より具体的な根拠を示すことができる。また、ムーブノートに、キャンディーチャートのシートを作成し、書き込み、「ひろば」に提出することで、一人では思いつかない様々な行動と、そうすべき根拠を共有でき、自分の考えを広げることができる。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題「大規模地震災害に備えるために自分たちはどのような行動をとるべきか」を考える。 ○被災した町の様子の写真や避難した人々のくらしの資料などから情報を集め、自分たちでできること、準備しておくことなどをグループで考える。 ○ステップチャートに災害に備えた行動を順に考える。 <p>【写真 2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと写真や資料を確認しながら、ステップチャートを同時編集で書き込んでいく。 ・ジャムボードのひろばを活用することで、自分のグループと周りのグループとの違いについて知り、自分のグループの行動について、練り上げていく。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の地震対応マニュアルや危機管理マニュアルのステップチャートを紹介し、自分たちの作ったチャートと比較する。 <p>【写真 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じ箇所やさらに詳細に考える必要があることを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで作成することで、様々な備えや行動が想像できる。また、「地震対応マニュアル」や、「危機管理マニュアル」と、自分たちが作成したチャートと比較することで、見本と一致している点やさらに深い考えによる行動が確認でき、防災意識を高めることができる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】 キャンディーチャートに自分の考えを書き込んでいる場面



【写真 2】 グループの考えをステップチャートに書き込んでいる場面



【写真 3】 学校の地震対応マニュアルのステップチャートと自分たちの考えたチャートを見比べている場面

児童生徒の反応や変容

授業終了後も子どもたちは命を守る視点から自分たちができる行動について、教員に様々な疑問や感想を伝えていた。キャンディーチャートやステップチャートは子どもたちが思考を深めるのに、有効なツールであると感じた。子どもたちにとって大地震に備えるという学習は、身近な課題として捉えやすく、意欲的に取り組めたと感じている。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

シンキングツールのキャンディーチャートやステップチャートなどを日々使うことで、子どもたちの思考が深まると考えられる。ムーブノートに、キャンディーチャートのシートを入れることにより、書き込みがしやすい。シートを共有することで、一人では思いつかない様々な行動と、そうすべき根拠を子どもたちが考え直し、自分の考えを広げることができた。